

社会科部提案 2020.1.24

**社会的事象について、理解、判断、試行を繰り返し、自らの社会への関わり方を考える子の育成**

一身に付けた見方考え方を活かして多角的に考える学びを通して—

東京学芸大学附属小金井小学校：社会科部  
岸野 存宏 根本 徹 牧岡 俊夫

**1. わたしたちの問題意識**

(1) 社会科という教科のもっている理念

(2) 学習指導要領の求めているもの

**(1) 社会科の起源**  
「学習指導要領一般編（試案）昭和22年度 文部省」

・社会科は  
「事実や、また事実と事実とのつながりなどを、正しくとらえようとする青少年自身の考え方、あるいは考える力を尊重せず、他人の見解をそのままに受け取らせようとしたこと」  
への反省から生まれた。

「自ら考え判断する子ども」を育てること  
この実現のための授業づくり

**(2) 新学習指導要領の求めているもの**

「知識や思考力等を基盤として、社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力」

「社会認識形成のみでとどまるものではなく、社会的事象を考察し、そこから選択・判断したり、それらに向き合ったりする態度までも含んだもの」

これから設定する「育てたい子供像」

↓

「社会的事象について、理解、判断、試行を繰り返し、自らの社会への関わり方を考える子」

**2. テーマ設定の理由**

**社会的事象について、理解、判断、試行を繰り返し、自らの社会への関わり方を考える子の育成**

一身に付けた見方考え方を活かして多角的に考える学びを通して—

(1) 「見方・考え方」からのアプローチ  
(2) 「子どもの学習過程」からのアプローチ  
(3) 「公民的資質を育てる視点」からのアプローチ

**(1) 「見方・考え方」からのアプローチ**

・文部科学省  
視点や方法（時間、空間…、比較分類、統合…など）  
授業づくりに活かしたり、思考力・判断力、生きて働く知識が習得されたか、態度や自覚・愛情へつながったか、などを振り返ったりする教師のための視点 → 教える内容ではない

・本校社会科部  
社会的事象について、確かな理解に基づいた意味や意義を考える場面でその子が発揮する個性

見方・考え方を活かす = 個性的な追究

**(2) 子どもの学習過程**


近年の認知心理学の成果

：社会認識の過程は一本道ではない

：学び手の持っている既習の経験・知識（スキーマ）によって、理解の仕方は異なる

認知心理学からの提言 今井むつみ (2016)

「問題解決のそれぞれの場面で**使うべきかどうかを見極められる**ことができ初めて使える知識になる」



知識（スキーマ）の習得の過程は熟達の過程でもあり、「熟達とは、新しい知識を既習に取り込み、**肥大化ではなく進化**させることである」

認知心理学からの批判 今井つみ (2016)

「何か新しいことを学習する時に、必ず、すでに持っている知識を使って、新しい知識と自分との間を埋めながら理解している

個々の学び手の持っている知識（スキーマ）によって、理解の仕方は異なる

「何を教えるか」研究だけでは、「使える知識」になるとは限らない。

(2) 子どもの学習過程

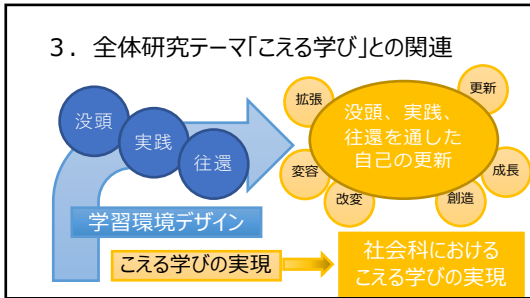
近年の脳科学の成果  
：社会認識の過程は一本道ではない  
：学び手の持っているスキーマによって、理解の仕方は異なる

- ① 一つ目の見方・考え方を元に理解することからスタート
- ② 次に学ぶ学習内容によって新しい見方・考え方と出会う
- ③ 比較・分類を通して理解を深めたり、判断したり、そこから深めようとする

・理解 新しい社会事象との出会い 社会事象の価値づけ	・判断 新しい社会事象の解釈 仮説を立てる	・試行 仮説検証のための活動 インタビュー、資料からの追究
----------------------------------	-----------------------------	-------------------------------------

(3) 「公民的資質」からのアプローチ

- ・「自分事」として関心をもち、「どうにかしたい」「自分だったら」「どうすることがよいのか」といった問いについて検討することを通して、社会へのかかわり方を考える授業づくり（これまでの研究）
- ・「自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力」（新指導要領）
- ・「持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度」（新指導要領）



社会科における「こえる」学び

「没頭、実践、往還によって実現される自己の更新」が起こる場面

「見方考え方を活かす」  
「理解・判断・試行を繰り返す」  
「自らの社会へのかかわり方を考える」

学習者一人一人が「見方考え方を活かす」ような学習

【追究に没頭すること】  
【他者との対話を通じた自己の考えと他者の考えとの往還】  
【考えの実践】を通じた実感から生じた自己の更新

「理解・判断・試行を繰り返す」学習過程

【問題解決の過程に没頭すること】で生じる自己の更新

「自らの社会へのかかわり方を考える」過程

実際に行ってみたり、詳しく調べてみたり、あるいは自分の考えとして表現してみたりして得られた実感からの自己を更新

4. 研究の重点

教材 ① 多角的な視点での検討へと発展する学習展開を生み出す教材の工夫

学習展開 ② 表現活動と表現の質的な変換をもたらすための学習展開の工夫

評価 ③ 自らの学びを振り返り、メタ認知を促す評価の工夫